

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年11月16日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2773001504
法人名	社会福祉法人 ともしび福祉会
事業所名	飛鳥ともしび苑
所在地	大阪市東淀川区東中島3丁目16-20 (電話) 06-6990-5002

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 10月 30日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	18人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	15.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ⑧		
保証金の有無 (入居一時金含む)	⑨ (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	⑩ / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 100円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要 (平成 21年 9月 26日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	7名	要介護2	6名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 81.4歳	最低 61歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	淀川キリスト教病院、本町診療所、崎原歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年地域の福祉活動をしてきた法人が運営するグループホームで、法人の在宅介護・高齢者通所介護等で培ったノウハウを基に、地域に密着したサービスが行われています。最寄駅からすぐの緑に囲まれた閑静な住宅街の中にあり、同法人が経営する飛鳥健康管理センターが隣接し、そこでは通所介護、訪問介護、居宅支援事業所、ふれあい型食事サービスなどの事業を行い、地域との繋がりを大切にしながら各事業所との連携が図られています。利用者の願いの言葉をそのまま理念として掲げ、利用者の思いを大切にし、無理強いすることなく、寄り添い見守りながら支援し、サービスの質の向上にも取り組んでいます。建物の屋上には菜園があり、利用者も時々訪れ、芝生や草花で緑や季節感を感じることができます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 外部評価の結果は職員が共有し、改善計画シートも作成しています。前回の外部評価で示された「運営推進会議の定期開催」と「非常災害時の備蓄」については、改善しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は、自己評価及び外部評価の意義をよく理解しています。自己評価は全職員が作成に参加し、管理者がまとめています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の代表、利用者等から参加を得て、2ヶ月に1回定期的に開催しています。事業所の状況を報告し、事業所の課題や行事等について説明し意見をいただいています。家族の参加を得て、積極的な意見をいただけるように検討を進めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、利用料金の支払いで家族が来訪する際、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、金銭管理出納帳と領収書の確認を得ています。体調不良や緊急を要する場合は、その都度電話で家族に報告をしています。年2回、家族宛のグループホーム便りの発行を予定しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 長年地域で福祉活動を進めてきた法人が運営するグループホームであり、地域との交流は盛んです。直ぐ前の同法人運営の老人福祉センターが開催する行事への参加、幼稚園児とのお茶会、敬老会、運動会見学等や、小・中学校との交流もあります。地域の高齢者が、利用者を喫茶に誘ってくれることもあります。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『私の話を聴いてほしい。私のして欲しいことを訊いて欲しい。私自身をもっと理解して欲しい。これは出来ない決め付けしないで欲しい。私を‘今’と言う時を生きさせて欲しい。』という利用者の言葉をベースに『いのち輝く健やかな暮らしなれと、共に歩んで行きたい。』を運営理念として、地域の繋がりを大切にしながら、利用者一人ひとりがその人らしく幸せに暮らせるよう日々努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念は、各ユニットの玄関に掲示しています。管理者は、毎月開催のケース会議や内部研修の機会に理念の内容について確認し、共有に努めています。職員は、日々のケア業務や課題検討の拠りどころにしています。管理者は更に高い水準のケアサービスの目標に向かって、職員と共に、新しい理念の構築も検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	長年地域で福祉活動を進めてきた法人が運営するグループホームであり、地域との交流は盛んです。直ぐ前の同法人運営の老人福祉センターが開催する行事への参加、幼稚園児とのお茶会、敬老会、運動会見学等や、小・中学校との交流もあります。地域の高齢者が、利用者を喫茶に誘ってくれることもあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自己評価及び外部評価の意義をよく理解しています。自己評価は全職員が作成に参加し、管理者がまとめています。外部評価の結果は職員が共有し、改善計画シートも作成しています。前回の外部評価で示された「運営推進会議の定期開催」と「非常災害時の備蓄」については、改善しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催要項が決められています。地域包括支援センター職員、地域の代表、利用者等の参加で、2ヶ月に1回定期的に開催しています。事業所の状況報告、事業所内の課題や行事等について説明し意見をいただいています。家族の参加を得て、積極的な意見をいただけるように検討を進めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区職員とは緊密な関係を築き、情報の交換及び事業所の現状、事故報告、事業所の困難事例等の相談をしています。区職員からの指導やアドバイスを参考に、サービスの質の向上に繋がるよう努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調不良や緊急を要する場合は、その都度電話で家族に報告をしています。年2回、家族宛のグループホーム便りの発行も進めています。毎月、利用料金の支払いで家族が来訪する際、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告しています。また金銭管理出納帳と領収書の確認の際、確認の署名または捺印を得ています。しかし、一部で捺印のみの家族もあったため、今後は、署名を得られるよう検討することが望まれます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関カウンターに意見箱を設置しています。管理者や職員は、毎月の家族来訪時に、話のできる機会を増やすように努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所は、利用者にとって、馴染みの職員や管理者の支援が大切であることを充分認識し、職員の処遇改善や良好な人間関係の維持を図り、職員の離職、異動を最小限に抑えるよう努めています。離職者がある時は、他ユニットから経験のある職員を異動し、新人職員のフォローをしながら利用者へのダメージを少なくする等の配慮をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間計画に沿って、研修が計画的に行われています。採用時は、マナーを中心に研修をしています。認知症研修は3ヶ月に1回実施しています。外部研修や資格取得研修は管理者が経験年数などを考慮し人選していますが、職員が希望すれば受講の機会があります。感染症、認知症についての研修は行われていますが、緊急時対応に関する研修については、実施できていない状況です。	○	今後は研修済みの「感染症」「認知症」にあわせ「緊急時対応」についても研修を受講することが求められます。また、毎月のケース会議等の際、時間を工夫して短時間でも研修を計画的に実施されてはいかがでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人福祉施設連盟のグループホーム分科会に参加して、月1回意見交換や相互交流をし、サービスの質の向上に役立てています。職員は、同法人が運営する他地域の事業所を見学し、参考にしています。管理者は地域のグループホーム部会を作り、積極的に交流を進めたい意向があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に、職員が利用者の自宅を訪問することがあります。また利用者や家族はホーム見学や、体験入居を通じて、利用者や職員と馴染みの関係を築き、充分納得してから契約し、サービスを開始しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	日常生活の中で、買物、掃除、洗濯物のたたみ、調理の下ごしらえ、配膳、下膳、お盆拭き等、利用者がそれぞれにできることを職員と共に行うことにより一体感を築いています。利用者からこんにやくの塩もみ等、食材の下ごしらえのコツを教えていただくことが多々あります。つらかった戦争の体験を熱心に聞かせてくれる利用者もいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を共にする中で、表情や行動も含め、利用者の思いや意向を汲み取るよう努めています。利用者からの聞き取りが困難な時は、家族や関係者より情報を入手し、利用者本位の介護計画の作成に繋げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ICF（国際生活機能分類）による「生活機能向上シート」を活用し、毎月のケア会議で話し合われた内容も参考にしながら介護計画を作成しています。作成された介護計画は家族に内容を確認してもらい署名、捺印を得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング、ケア会議を実施し、定期的に3ヶ月に1度は介護計画の見直しを行っています。状態の変化により必要に応じて随時介護計画を見直し、現状に沿った支援ができるようにしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の通院等、家族の都合や状況により通院が困難な際には、ホームで支援するなど柔軟な対応をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回は専門医の往診、半年に1回は内科などの検査のため通院支援を行っています。夜間などの緊急時には協力病院との連携により対応が可能になっています。歯科、眼科は近所にあり、希望があれば通院しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	原則として終末期ケアは行わない方針で、入居時に本人や家族に説明し、了解を得ています。重度化や医療管理が必要な状況になってきた際、かかりつけ医からの意見などを再度家族に説明し、話し合いながら今後の方向性を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時には誓約書を取り交わし、個人情報の秘密保持について確認しています。利用者に関する書類は鍵の付いた書庫に保管しています。利用者に対しての言葉かけは、利用者の尊厳を意識し、常に言葉を整理して発するように心がけています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況も日々変化していくことを理解し、その都度できるだけ本人の希望や意向に添いながら無理強いすることなく、1日を過ごせるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当の職員が2ユニット交替で、隣接する健康センターのメニューを参考に、利用者の意向も聞きながら献立を作成しています。買い物、調理、配膳、下膳も利用者と一緒にしています。年に1回は健康センターが主催するバイキングに参加し、また年に2回は利用者の希望を聞き外食もしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室が少し広めで温度調整が難しいようですが、床暖房などの設備により配慮されています。利用者の8割以上が入浴を週3回できています。ユニットにより身体状況や入浴を好まれない方がいますが、清拭、足浴などにより対応し、清潔の保持を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し踏まえた上で、利用者にあった社会的な生活支援を行っています。編み物、調理、お盆拭きなどを日々の役割や楽しみごととし、利用者の笑顔を大切に、職員は見守り、共に寄り添いながら支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品の買い物に近くのスーパーへ出かける際や、毎日散歩に出られる方には職員と一緒に出かけています。歩行が不安定な方には車いすで外出するよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット毎にそれぞれの玄関があり、電子キーが付いていますが、利用者も簡単に操作できるようになっており、自由に入出りができます。ベランダやテラスの窓には施錠せず、開放感があります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の備蓄対策は、担当者を決め定期的を確認し災害時に備えています。飲料水、缶詰、レトルト食品の他、オムツ、衣類なども用意しています。年2回消防署の協力で避難訓練を行っています。今後は、夜間想定 of 避難訓練の実施に向けて、消防署に協力を得てはいかがでしょうか。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回チェック表に記入し把握しています。栄養バランスについては、同法人健康センターのメニューを参考に献立を考えています。しかし、運動不足や体重増加等も懸念されるため、今後は同法人の栄養士等から定期的なアドバイスを受け、摂取量や栄養バランスの検討をすることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットが1フロアにありますが、玄関は個々にあり格子戸で温かみを感じる造りとなっています。玄関先には季節の草花やプランターで野菜も作っています。それぞれのユニットのリビングには畳敷きの空間に掘りコタツがあり、そこで、利用者同士で話しをしたり、また横になって休んでみたりする等、それぞれに落ち着ける場所となっています。居室のトイレの他、車いす対応のトイレも設置されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はトイレ、ベッド、クローゼットが常備されています。他に仏壇、椅子、タンスなどの持ち込みも自由で、利用者の慣れ親しんだものがあり、落ち着いて暮らせる工夫ができています。ベッドが慣れない利用者には、ベッドをなくし畳敷きに変更するなどの配慮をしています。		